



### 上 米 塚 の 熊 野 神 社

う呼んでいたことはわかる。幕の内なども水害で東に移っているから上米塚が河筋の変る以前からの扇頂中州に発達した村としても、遙かに東寄りであって、大川が現位置に固定し、荒れ川の河幅を拡大してくるにつれ、西に相当移動しているとみるのがよいかと思う。寛文五年、貞享二年の書上げが、橋爪組について発見できないので、推測を出ないのが残念である。或は村南にある熊野神社の境内附近が、旧部落位置かとも思ってみる。天和三年の洪水に社殿が押流され、柏原の熊野神社に移していたことがある。現在の社殿は昭和十七年に再建されたものである。高見が原という、洪水の際、村人が避難した場所に桜樹がたくさん植えであったというが、現在は田圃になっている。洪水の伝承は多い。

2、泉現寺と地藏堂 白米山泉現寺という名は米塚と湧水に關聯させた名称であると思うが、地藏尊は玉光堂といい、宗願という部落をつくった糟尾宗願の守本尊で、もと宗願町に祭ったものを寛永年中の次郎水の洪水で堂が押流され、村民の木野左五エ門という者が大川より御尊体をみつけて自分の家に安置しておいたのを、正徳元年泉現寺客殿に移したものであると伝える。宗願がここに村を開いたのは輩名十六代盛氏が元龜元年（一五七〇）向羽黒に隱居した時であるから、その後になる。泉現寺に天正頃（一五七三～一五九一）普門という僧が住んだとある年代とあまり無理なく結べるから、共